

広島型ランドバンク事業の新たなモデル地区（海田町）の決定について

1 要旨・目的

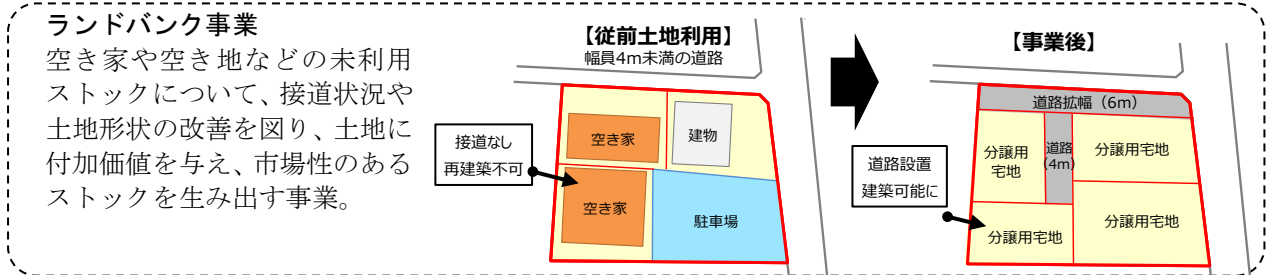
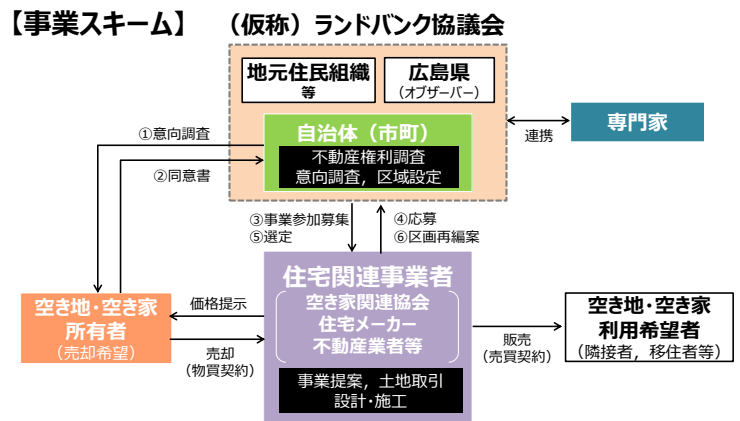
利便性の高い集約型都市構造の形成に向け、広島型ランドバンク事業に取り組むこととしており、三原市本町地区と府中市府中・出口地区をモデル地区として事業及び事業スキームの検証を進めている。

県内のランドバンク事業の普及に向け、都市規模に応じた事業スキーム検証を進めるため、新たに海田町の海田市駅北口地区をモデル地区として決定した。

2 現状・背景

令和3年度からの検討において、全県展開を見据えた事業スキームを構築した。

地元住民組織と自治体で事業を進める「ランドバンク協議会」を設置し、区画再編エリアの設定、整備方針の決定、関係者調整、事業者選定等を担い、再編エリアの土地買収、工事、再編後の土地販売を選定された住宅関連事業者（民間）が行う。協議会には、県がオブザーバーとして参画し事業を推進する。



3 概要

(1) 対象者

海田町、地元住民組織等

(2) 実施内容(決定理由)

海田市駅北口地区【別紙】は、JR海田市駅の北側に位置し、駅と隣接した利便性が高い地域であるが、狭い道路や未接道宅地が散在し、建替えが難しいことなど、今後、まとまって空き家が発生する可能性のある地域であることから、ランドバンク事業による効果が高い地区である。

また、令和5年3月に策定された海田町中心拠点まちづくり基本構想では、住み続けたい居住環境の形成施策としてランドバンク事業が位置づけられるなど機運が高まっている。

(3) スケジュール

(4) 予算(単県)

7,500千円

(5) 今後の対応

今後、ランドバンク協議会の設立を目指しており、県は協議会と連携して区画再編に取り組んでいくとともに、事業スキームの有効性を検証しながら事業を推進していく。

広島型ランドバンク事業 モデル地区（海田町 海田市駅北口地区）

- 凡例
- 居住誘導区域
 - 対象地区

